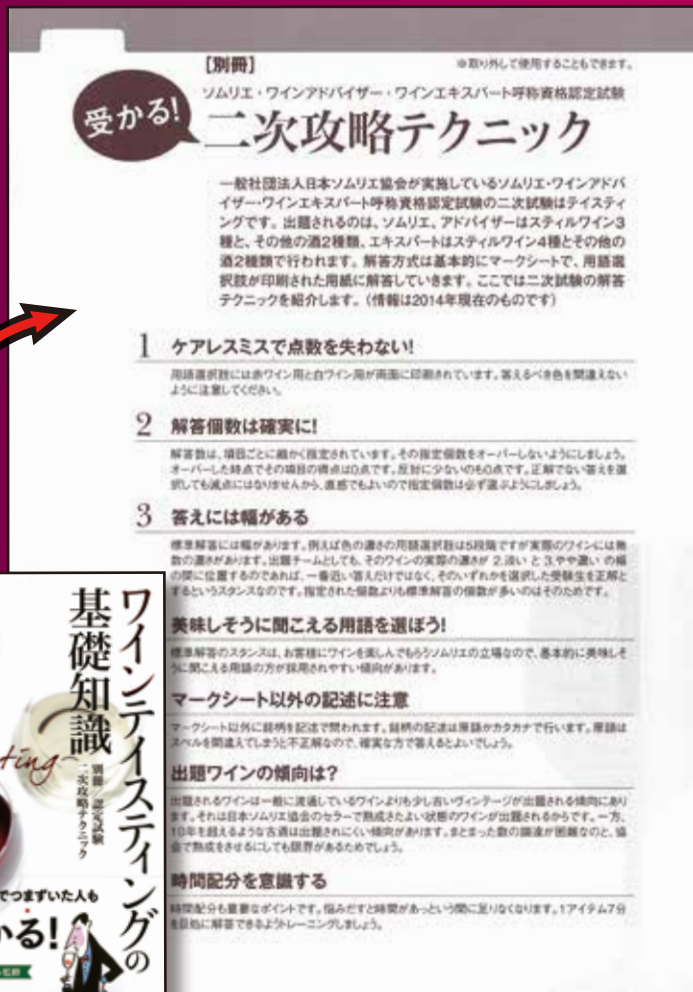


ソムリエ・ワインアドバイザー ワインエキスパート呼称資格試験



【別冊】
ソムリエ・ワインアドバイザー・ワインエキスパート呼称資格認定試験
受かる! 二次攻略テクニック

一般社団法人日本ソムリエ協会が実施しているソムリエ・ワインアドバイザー・ワインエキスパート呼称資格認定試験の二次試験はテイスタングです。出題されるのは、ソムリエ、アドバイザーはスタイルワイン3種と、その他の酒2種類、エキスパートはスタイルワイン4種とその他の酒2種類で行われます。解答方式は基本的にマークシートで、用語選択数が印刷された用紙に解答していきます。ここでは二次試験の解答テクニックを紹介しします。(情報は2014年現在のものです)

- 1 ケアレスミスで点数を失わない!**
用語選択数には赤ワイン用と白ワイン用が両面に印刷されています。答えるべき色を間違えないように注意してください。
- 2 解答個数は確実に!**
解答数は、項目ごとに細かく指定されています。その指定個数をオーバーしないようにしましょう。オーバーした時点でその項目の得点は0点です。反対に少ないのも0点です。正解でない答えを選択しても減点にはなりませんから、直感でもよいので指定個数は必ず選ぶようにしましょう。
- 3 答えには幅がある**
標準解答には幅があります。例えば色の選定の用語選択数は5段階ですが実際のワインには無数の選定があります。出題チームとしても、そのワインの実際の選定が2選いと3選いや選いの幅の間に位置するのであれば、一番近い答えだけではなく、そのいづれかを選択した受験生を正解とするというスタンスなのです。指定された個数よりも標準解答の個数が多いのはそのためです。

美味しくそうに聞こえる用語を選ぶほう!

標準解答のスタンスは、お客様にワインを楽しんでもらうソムリエの立場なので、基本的に美味しくそうに聞こえる用語の方が採用されやすい傾向があります。

マークシート以外の記述に注意

マークシート以外に説明を記述で問われます。説明の記述は原語がカタカナで行います。原語はスペルを間違えても正解するので、確実な方で答えるようにしましょう。

出題ワインの傾向は?

出題されるワインは一般に流通しているワインよりも少し古いヴィンテージが出題される傾向にあります。それは日本ソムリエ協会のセラーで熟成されたよい状態のワインが出題されるからです。一方、10年を超えるような古酒は出題されにくい傾向があります。またまった数の醸造が異なるのと、協会が熟成をさせるにしても限界があるためです。

時間配分を意識する

時間配分も重要なポイントです。粗みだと時間があるという間に足りなくなります。1アイテム7分を目処に解答できるようにトレーニングしましょう。

一次	2015年 8月23日(日)	2015年 8月24日(月)
	・アドバイザー ・エキスパート	・ソムリエ
二次	2015年10月19日(月)	

別冊 『認定試験二次攻略テクニック』付き

まるで図鑑の様に写真満載!
受験者必携の名著!!
(40代・男性)